

§5.1 線形写像

U, V が \mathbb{R} 上のベクトル空間で、 T が U から V への線形写像 $\stackrel{\text{def.}}{\Leftrightarrow} \begin{cases} 1. T(u_1 + u_2) = T(u_1) + T(u_2) \\ 2. T(cu) = cT(u) \end{cases}$
for $\forall c \in \mathbb{R}, u_1, u_2, u \in U$.

そして、 $m \times n$ 行列 A , n 次元ベクトル u に対し $T: U \rightarrow V$ と
 $T(u) := Au$ と定義すると T は線形写像である。

↓ 実は逆も言えて、

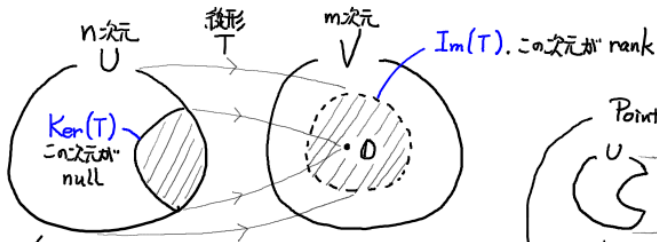
$\left[\begin{array}{l} \text{線形} \\ U: \text{ } \end{array} \right. \begin{array}{l} n \text{ 次元} \\ T: U \rightarrow V \\ m \text{ 次元} \end{array}$ に対し、 $u \in U$ の元の 座標 ベクトルとして、
 $T(u) = Au$, A は $m \times n$ 行列
の形で、 T を行列 A で表わせる。(この $A \in T$ の表現行列と言う)

§5.2 の内容、後で詳しくやる。

要するに、 $u \mapsto Au$ は線形写像で、
逆に、線形写像はこの形で書ける。

線形 $T: U \rightarrow V$ に対し、 def. $\left(\begin{array}{l} \text{image} \\ \text{像} : \text{Im}(T) := \{T(u) \mid u \in U\} \quad (T(U) \text{とも書く}) \\ \text{kernel} \\ \text{核} : \text{Ker}(T) := \{u \in U \mid T(u) = 0 \in V\} \end{array} \right.$

どっちも部分空間に
なってる。



Th 5.1.2

$$\dim(U) = \text{rank}(T) + \text{null}(T)$$

(証明、右上の Point! で理解しよう。)

